

## 文教厚生委員会会議録（要点筆記）

令和7年7月18日（金）

午前10時00分 開議

委 員 会 室

### ○委員長（國弘秀之）

ただいまから文教厚生委員会を始めます。協議題1「閉会中の調査事項について」を議題とします。本日は半田市の現状も踏まえ、学校教育課指導主事に、テーマである「ディスレクシア」についてご説明をお願いします。

### ○学校教育課指導主事（高橋直登）

（資料に基づき説明）

### ○委員長（國弘秀之）

それでは質疑に入ります。ご質疑ありませんか。

### ○沢田清委員

市内で、この障害がわからずに「勉強不足」などと感じてしまっている親御さんはどの程度いるのでしょうか。また、先生の理解度を高めるために我々ができることはありますか。

### ○学校教育課指導主事（高橋直登）

正確なパーセンテージは不明ですが、昨年度は各校1人程度、現在は3～4人いると言われています。親御さんも知識がないため気づけないケースが多いのが実情です。先生の理解については、8月27日に第一人者の宇野先生をお呼びして研修会を行います。行政として、つくば市のように「末端まで行き届く仕組み」をどう作るかが課題です。視察先でそのやり方をぜひ学んでいただきたいです。

### ○山本裕介委員

本人が早い段階で「自分は苦手なんだ」と認識した方が良いのでしょうか。また、生成AI等のICTツールを学校で整備・活用していくことは可能ですか。

### ○学校教育課指導主事（高橋直登）

小1では自分からは言えないため、こちらからアプローチして認識を促す「あぶり出し」が必要です。ICTについては、現に音声ソフト等は発達しており活用可能です。ただ、試験の時に別室を設けるなどの人的・物理的体制がまだ整っていません。教員養成を通じて活用法を広めていく必要があります。

### ○加藤美幸委員

小1以前、幼稚園や保育園の段階で見つけることはできないのでしょうか。現状、園での文字教育や発見の仕組みはどうなっていますか。

○学校教育課指導主事（高橋直登）

私立は教育方針によりますが、公立は小学校からの学習を基本としています。就学時健診でも現状ディスレクシアのあぶり出しは行っていません。今後の検討課題です。

○委員長（國弘秀之）

人口の7%、40人クラスで2～3人という話ですが、半田市の現場でそれだけの潜在的ニーズがある実感はありますか。また、自閉スペクトラム症（ASD）等との併発についてはどうお考えですか。

○学校教育課指導主事（高橋直登）

スクリーニング検査を導入する学校が増え、「怪しいな」と感じる声は多くなっています。ただ、知能指数や外国籍などの要素もあり、本質を見極める目が必要です。また、おっしゃる通りディスレクシア単体ではなく、ASDやADHDを併発している子がほとんどです。グラデーションがあるため、複数の専門家の意見や検査を組み合わせ合わせた総合的な判断が求められ、そこに行き着くまでの道がまだ険しいのが現状です。

○委員長（國弘秀之）

「つくばモデル」がなぜこれほど広がっているのでしょうか。

○学校教育課指導主事（高橋直登）

宇野先生によれば、かつては教育界でも「努力不足」と片付けられ、なかなか広がらなかったそうです。しかし、つくば市の担当者やリーダーが動いたことで研究成果が形になり、全国に波及し始めたとのこと。

○委員長（國弘秀之）

この件は以上とします。

次に、(2) 県外視察についてです。10月15日から3日間、東京周辺を中心に4箇所を予定しています。10月15日午後、10月16日午前は未定です。10月16日午後に国立成育医療研究センター、10月17日午前に茨城県つくば市に行くことで調整がついています。15日、16日のいずれかで、NPO法人読書配慮等の視察を検討しています。

最後に、協議題2「その他」についてを議題とします。決算審査の資料確認と日程調整です。しばらく休憩します。

休憩 午前10時45分

再開 午前10時47分

○委員長（國弘秀之）

会議を再開します。決算審査の日程のほか、8月20日（水）午前10時半より、議会事業評価（音楽のあるまちづくり事業）に係る聞き取り調査、9月8日（月）議案審査終了後に視察先への質問事項の調整を行いますのでご予定ください。

以上で本日の議題は終了しました。これをもって文教厚生委員会を終了します。

午前10時49分 閉会